

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会法人永楽会		
事業所名	グループホーム のどか	ユニット名	
所在地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81-4		
自己評価作成日	平成26年 10月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との交流に少しずつ力をいれている。入居者様が行きたい所(買い物)等には出来る限り行くようにしている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年1月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームのどかは穏やかに広がる万石浦湾沿いの閑静な住宅地の一角に位置している。付近には山が連なり、JR石巻線の駅と踏切、散在する工場がある。運営推進会議出席メンバーは町の職員、包括支援センターの保健師もしくはケアマネジャー、行政区長、民生委員が参加している。その場で得られる助言や情報を基にしたの町内各地域主催の行事、祭りの参加を支援し、外出の機会や馴染みの知人との交流となっている。中庭にある畑は、「外に出たい」「土の上を歩きたい」「草取りがしたい」などの要望に応じて、収穫や共に食す喜びの場となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム のどか**)「ユニット名 **B棟** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活や、今までの暮らしが継続できる様に理念を掲げています。私だったらという事を想定して入居者様が毎日を穏やかに混乱のない生活のサポートが出来るように実践している。	理念を掲示し職員は目にしている。ミーティング時、ケアについて話し合い、理念と重なる部分もあるが、理念のための話し合いは持っていない。理念の意義を職員全体での理解、共有までに至っていない。	理念についての意識づけをし、日々のサービス提供場面に、理念が反映されるよう取り組んでいただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所付き合いや日常的な交流はまだ出来ていないが、地域のイベントに参加したり、バーベキューに地域の方に参加していただいたりと少しずつ地域とのつながりを作っている最中です。	地区主催行事への参加や他の地域で行われる祭りなどにも積極的に出掛けている。近くの市場での買い物や、週1度訪れる町内のパン移動販売も楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れを行い、施設での役割や認知症の方々への接し方・支援方法などを助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、活動の報告や意見交換会を行っている。ケア会議や職員会議などで再確認を行なっている。	隔月の会議には町、及び地域包括支援センター職員、民生委員の出席がある。「保育所との交流を復活してはどうか」の意見があったり、祭りの情報などを入居者の「外へ行きたい」要望の実現に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報交換や入居者間の相談、施設のみで対応が難しい時など相談を常に行い、連携を図っている。	行政区長との関わりの推進、その仲立ちや「帰宅願望の強い入居者を、SOSネットワークへ登録してはどうか」などの助言をもらった。入居希望待機者の相談などもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1人ひとりの習慣や特徴を知り、可能な限り付き合う事を原則にし夜間のみ施設している。職員間では入居者様の対応方法などは常に相談・検討を行なっている。	併設する特養ホームでの法人研修「リスク委員会」で事例を基にした勉強会が毎月行われ、職員は交代で参加し理解、実践に努めている。徘徊の傾向が見られた時には制止をせずに寄り添い、要求を満たすようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者人には小さな事でも報告している。職員同士お互いを助け合い個々の負担を抱えないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修や後見人に話しを聞いたり勉強会へ参加し勉強する機会がある。まだまだ、職員の理解度は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査時の不安や疑問は契約時に説明を行い、理解していただくように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部事務局にはお客様相談室を設けている。また、面会にこられた時には、家族様の要望や意見を聞き、要望に添えるように努めている。	入居者との日常会話の中や面会時の家族との対話、運営推進会議、事業所主催のパーベキュー大会への招待、出席時などの機会に意見の引き出しを図っているが多くは出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要に応じて、個別に話しを聞き助言できる機会を設けている。また、理事長の個別面談もあり順次行なっている。	会議の時や、気付きの場面で改善の提案がなされている。金銭の使い方、服薬の管理方法、シーツ交換の時間、使用パッドの種類など、入居者の変化や要望に添った内容の意見である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は資格に応じた手当を支給している。実務経験や実績を踏まえて資格取得への働きかけや研修への参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で学ぶ機会が多くあり出来る限り職員が参加できる様にしている。また、業務の中では個々の能力に応じ得意分野での業務に役割と責任が持てるように分担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会がなく出来ていない。交流を持てるように、見学などを行ったり、連絡協議会への参加を行いサービスの質を向上して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境などが変わり、ご本人のストレスなどが最小限に抑えられるよう訴え・行動・要望に添っていくこと。また、ご家族の協力を得ながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは連絡を取り合い、施設に気軽に足を運んで頂けることで信頼関係を築く。施設の理念を伝えることで安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のケアプランを立て、精神状態の把握を行い、早期に施設に馴染み安心した暮らしができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立を促し、出来る部分が沢山あることを自覚して頂く。家族の一員として頼りにしていますという気持ちを常に表現している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は協力的で関係は良好である。通院や外出等、また施設内での行事にも参加していただくことで絆を断たないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災で馴染みの場がなく交流の機会が少なくなっているのが現状となっている。商店街や美容室や地域のイベントなどへ足を運び、交流を図っている。	町内各地域行事や祭りへの積極参加、復興市場での買い物、近くの特養ホームを訪問している。通院していた医療機関での定期健診時などで、馴染みの知人に出会い、旧交を温めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況・雰囲気察して職員は仲立ちとなり、トラブルにならないように配慮している。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所なども工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ支援や相談に応じていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中や会話から、要望や希望を把握している。	職員は入居者と一緒の食事や、テレビ視聴の時などに思いを聞くことが多い。「外に出たい」「土の上を歩きたい」「草取りしたい」の思い引き出すなど、一人ひとりとの会話を大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との会話や家族様との歓談の中から、今までの暮らしや生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録への記載、申し送りノートの活用、健康チェックなどを行い状況把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らし、身体・精神状態の把握は毎日行っており、ケア会議・担当者会議・職員会議を行い、ケアプランの見直し・更新を行なっている。	本人、家族との話し合い、個人の生活記録、担当者のアセスメントによる意見を基に医師の助言を入れ、職員会議で話し合い、見直し計画書を作成し、支援の統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記載を行い、職員間で情報の共有をし、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの支援は多様で、日によっても変化している。その場での解決や安心して生活していただける様に支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	震災時より少しずつ復興している。改めて地域資源の把握と協働の体制作りを図りたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院を協力機関とし、緊急時や定期受診でお世話になっている。ご本人の身体状況などをご家族と相談していきながら適切な医療を受けられるように努める。	入居以前からのかかりつけ医が協力医療機関と同一であり、馴染みと安心感に繋がっている。認知症患者センターへの通院もあり、受診記録結果は毎月、個人の生活記録と共に家族へ送付している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の看護師に施設内で出来る範囲の助言をもらったり、判断が難しい時は協力を頂き健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での自立状態を把握して頂き、退院に向けては、自立に向けての生活リハビリや機能訓練をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設には看護婦の配置はなく、終末期については、ご家族はバックアップ施設への入所を希望している。今後の課題として、ご家族の要望をしっかりと聞き、施設での取り組みを検討していきたい。	入居申し込み時に口頭で説明している。入居時には、併設する特養ホームへの同時申し込み手続きをすすめている。看取りの方針を成文化し、家族への説明同意をお願いしたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や救命処置の勉強会があり、ある程度の知識は身につけている。また、定期受診の際に医師より助言をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しての避難や備えについて検討を重ねている、マニュアルの見直しを図っている。避難訓練も定期的を実施している。	避難訓練を年2回実施している。1回は消防署員4名立合いの元、指導講評を得ている。1回は夜間想定で、地域住民1名の協力があった。入居者全員ヘルメット着用、第1避難場所までの訓練ができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないように、周囲との誤解を招かないように配慮し穏やかな声掛けを心がけている。	職員は入居者と接する時に、人生の先輩としての尊厳を大事にし、そして敬う姿勢を共有している。失禁時の後始末やパッド類の取り替えなどには、さりげない支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状況・雰囲気を見て職員は仲立ちとなり、トラブルにならないように配慮している。性格的なものや日々の関係を考慮し、居場所なども工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、入居者様と一緒に過ごすという支援を最優先にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の髪型や服装の好みを尊重している。こまめに整容(散髪・髭剃り・爪切り等)の声掛けや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を取り入れたり、楽しめる食事作りを心がけている。また、調理や配膳など出来る事をしていただいている。	地元の食材や入居者の好みを取り入れた献立になっている。おてふきの準備、味見、後片付けの手伝いがあり、職員と談笑しながら食事をしている。外食の要望にも応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は常に気を配っている。食事形態や嚥下状態も個々に把握し提供を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方はご本人と相談し、ケア用品の補充などを行っている。毎食後の口腔ケアは自立の方はご本人に任せている。起床・就寝時は口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録と申し送りにより排泄リズムを把握している。トイレ案内や行動を察知し、可能な限りトイレでの排泄が出来るように支援を行なっている。	入居当初時の全員自立状態を維持、継続している。パッド使用者には朝、昼、晩に状態確認を行っている。半数程の人に便秘傾向が見られ、本人の訴えや排泄チェック表により、服薬など医療機関に相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動(自由参加)を行い、出来る限り参加して頂ける様に働きかけたり、バランスの良い食事作りを心がけ予防と対策に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望のある方に対しては、出来る限りその時間に提供できる様にしている。曜日などで固定化し認知症の方でも把握しやすい環境づくりをし、清潔保持に努めている。	週2回以上の入浴としているが、希望があれば随時、夜間も可能である。拒否が見られた時には、仲良しの「～さんが入っているよ。次に入ろうね」と声掛け、誘導することにより安心感につながる入浴支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の生活リズムを把握した上で、状況に合わせて昼寝・就寝時間の配慮を行なっている。安眠や熟睡が出来る様に日中の生活リズムの見直しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来れば薬は減らしたいのが施設での考え方であり、その都度かかりつけの医師と相談を行いながら服薬を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を見つけて、やってうただく様に働きかけている。楽しみごとは出来る限り実現するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って、積極的に行なっている。また、こちらからも提案して外出していただけるように働きかけている。	暖かい日には周辺を散策している。季節や行事毎の外出も多い。初詣の湯殿山分社、日和山の花見、莓狩りなど石巻に行く機会が多く、町内各地の絆フェスティバル、花火大会、秋祭りなどへも出掛けている。その折の買い物も楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にて保管しているが、お金の管理が出来る方は、買い物時などに現金の所持をしていただいたり、会計時に自分でお支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に添い、電話や手紙などは自由にしていただいている。ご家族にも協力を頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の場所と認識できる様に席は固定化している。ソファ・こたつなどを設置したり植物などを置き居心地の良い空間作りを行っている。	玄関とリビングには程よい大きさの門松と獅子頭、和紙の折り紙が飾られ、季節を感じさせる。リビングは広く、移動しやすい。浴室脱衣所にはエアコンが設置されており、入浴時の温度差への配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、テレビなど工夫しそれぞれが居心地の良く過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた物を持ち込んで頂き、その方の好みや個性を尊重した居室になるようにご家族にも協力を求めるも、理解をして頂くのは難しい時もある。	クローゼット、洗面化粧台、車椅子対応のトイレがある。各自、衣装ケースや装飾品を持ち込んでいる。動物の縫いぐるみや位牌、加湿器も見られる。毎朝、職員と一緒に掃除を行ない、清潔な環境を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた備えが出来る様に担当職員は工夫している。出来る事や分かる事を前提にドアの開放や照明などの使い方も工夫している。		